

●●●●●●●●●● S-KYT研修を実施して ●●●●●●●●●●

宮崎県西諸県郡高原町

1 はじめに

高原町は、宮崎県の西南部、国立公園霧島山を境に鹿児島県と接する静かな山あいに位置しており、その名称は、かつて神々が暮らした「高天原（たかまがはら）」に由来すると言われています。

町の面積は85.38km²でおよそ50%を山林原野が占めており、霧島山系からの豊富な水が大小の河川となって町内を流れていることから、水とみどりに富んだ自然豊かな町としても知られています。日本最深の火口湖「御池」や全国に4ヶ所しかない国設の野鳥の森である「御池野鳥の森」や霧島山系の恵みである温泉など美しくすばらしい環境を有し、さまざまな祭りやイベントなどを通して人々がふれあい、町民総ぐるみで生き生きと輝く明るい町です。

町の基幹産業は農業で、中でも畜産業の割合が高く、農業粗生産額の約7割を占めています。とりわけ、肉用牛の生産が盛んで、その肉質の良さは全国で高く評価されています。

また、平成18年10月4日には、特定非営利活動法人「日本で最も美しい村」連合に加盟しました。現在、自然と人間の営みが長い年月をかけて築き上げてきた、一度失ったら二度と取り戻せない日本の農山村の景観や環境・文化を守る活動を展開しています。

2 高原町消防団の沿革

高原町消防団は昭和22年8月20日に結成され、現在、消防団は団員定数170名、消防団本部と8個の部で構成されています。

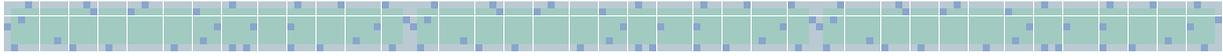
常備消防は、昭和47年に西諸広域行政事務組合消防本部を発足させ、現在小林市、えびの市、高原町の2市1町で広域的に整備されています。

高原町消防団では、年次計画に基づき、規律訓練、防災訓練などの各種訓練を実施しています。平成20年度には、「県防災の日」の5月25日に、大規模火山災害と水害を想定した「宮崎県総合防災訓練」に参加し、住民の避難誘導及び救助など、多種にわたっての防災訓練を行い、平成21年度には、当町防災訓練において、県防災救急ヘリコプターへの給水訓練及び空中消火訓練などを行いました。また、平成22年度中に、霧島連山高千穂峰の登山訓練を実施することを、現在、部長会（幹部会）において検討中です。

山の麓にある消防団として、地域特性に着目し、地域に根ざした、町民から信頼される魅力のある消防団を目指していきたいと考えております。

3 「S-KYT研修事業」を実施した経緯

日頃から、消防団本部は、各部に対して、活動中における団員の安全管理を徹底するよう指導していますが、年間数件の公務災害が発生し



タッチアンドコール

ております。

公務災害は、火災現場での消火活動中や訓練中に発生しています。もちろん団員はそれぞれの場面で懸命に活動しておりますので、公務災害を回避することは難しかったのですが、消火するための焦りから、基本動作をしなかったことによる公務災害や準備運動が足りなかったことによる公務災害など、ちょっとした油断があったために公務災害が発生している場合もあり、本人又は周りの団員の配慮があれば防げる災害もあったのではないかと思います。

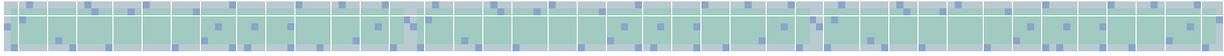
このような状況下で、宮崎県市町村総合事務組合から公務災害防止研修実施についてのお声掛けをいただき、消防団幹部に諮ったところ、「S-KYT研修を受けてみよう」ということになり、本年度の実施に至りました。

4 「S-KYT研修」を実施して

平成21年11月、平日の午後7時から、各部の班長以上を対象に「S-KYT研修」を2時間実施しました。研修の体制は、団本部と各部ごとに9班を編成し、それに行政職員の1班が加わり



討議終了後の発表



参加者全員によるタッチアンドコール

計10班で行いました。

研修には実技が多く取り入れられており、その中で、起立し椅子をしまい込むときは「椅子押し込みヨシ！」と大きな声で指差し呼称をするよう講師からの指導がありました。受講者は、最初は恥ずかしそうに小さな声で、また、「こんなことが本当に必要なのだろうか」と半信半疑で行っていましたが、その後のイラストを用いたのシュミレーション訓練や班ごとの発表などを実践していくうちに、その必要性がわかり、自然と大きな声で発声するようになっていきました。

研修終了後のアンケートには、「部長、班長としての責務である公務災害をゼロにするための方法を勉強した。」「今後、団員にこの方法を浸透させていき、ケガのない部にする事で、部の活性化に努めていきたい。」などの記載がありました。そして、特に多かったのは「操法訓練の開始前に一人ずつ健康状態を確認することは今までしたことがなかった。今後、消防活

動だけでなく、自分の仕事にも活かしていきたい。」という記載で、これは、研修の中で行った「健康KY」という実技により団員がその重要性を感じた結果と思われます。団員が互いの健康状態を気づかうことで事故のない消防団活動が推進され、ひいては消防団の団結力がさらに高まり、より充実した消防団活動に繋がっていく有意義な研修でした。

5 今後の取り組みについて

後日、団長から「S-KYT研修」で学んだことを各部で実践するよう指示があり、現在、各部でその取り組みが行われています。

今回の「S-KYT研修」は、本町消防団では初めての試みとして各部の班長以上を対象に実施しましたが、今後は、未受講の団員への研修や、今回、受講した団員のさらなるステップアップを目指した研修を取り入れていきたいと考えております。